

氏名 小川詩乃

所属 人文学部法経政策学科 1年

派遣先大学 ベトナム国家農業大学

派遣期間 2016年2月22日～3月7日

◆日本語教室での指導内容



日本語教室は午前1コマ（9時～10時半）午後1コマ（3時～4時半）の1日2コマ行った。日本語教室に来る生徒はレベルが様々でひらがなやカタカナが分からない生徒から日常会話ができる生徒までいたので、初級・中級・上級に分けて授業をした。どのクラスでも「みんなの

日本語」という教科書を使って生徒の希望に沿って授業を進めた。初級クラスでは、ひらがな・カタカナの50音表の読み書きや発音練習、簡単な単語の読み書き（いぬ、ねこ、カメラなど）を行った。また、「わたしは〇〇です。〇〇から来ました。〇歳です。よろしくおねがいます。」といった簡単な自己紹介はできるように練習した。中級クラスでは、教科書に載っている単語の発音練習→例文の音読→練習問題という流れで進めた。ただ読んで終わりにするのではなく、実際にどのような場面で使うのか生徒に実践してもらうようにした。上級クラスでも、中級クラスと同じ流れで教科書の学習を進めた。生徒の希望に沿って「みんなの日本語」という教科書のほかに、日本語検定に向けたテキストの内容を勉強したりもした。そこには日本人でも説明が難しいような内容が多かった。また、社会人の方は、仕事の専門に関するテキストに書かれた日本語の漢字の読み方と意味を聞いてくる方もいた。

全体を通して「や」「ゆ」「よ」や「つ」の発音が難しいように感じられた。「7」「4」「9」などの時や分で読み方が違うなど読み方が複数ある数字で混乱していた。「100」や「1000」「10000」など位が大きい数字の読み方も難しく、「いちじゅう」「いちひゃく」と読んでしまう生徒も多かった。また、カレンダーで「ついたち」「ふつか」「みっか」「よっか」などの特徴的な日付の読み方も難しいようだった。「わたしは」と「わたしが」の違いなど助詞についての質問もよくあった。

◆日本語教室以外での現地での交流活動

現地では日本語教室以外の活動もとても充実していた。平日は学食や学校付近のお店で食事をした。学校付近のお店はとても安く1食80円～100円で食べることができるので、普通にご飯を食べた後にデザートを食べに別のお店に行くことがよくあった。ベトナム

ムの学生が「今日は何を食べたい？」と聞いてくれるので食べたいものを食べることができた。平日の夕方には bigC という大きなスーパーに行って水やお菓子を買って夜にお菓子パーティーをしたりした。ベトナムの学生が部屋に遊びに来て一緒にお話をしたり、サッカーや卓球をしたりした。また、バイクに乗せてもらったり、ベトナムの伝統衣装であるアオザイを着せてもらったりなど貴重な体験ができた。

休日は、1週目の土曜日は学生の家に来てもらって、春巻きやお好み焼きを一緒に作ってベトナムの伝統料理を食べさせてもらった。にハノイセンターに行きお土産を買ったりフエ料理を食べたり有名なカフェに行ったりもした。カフェから見える湖と夜景がとても綺麗だった。日曜日はバスを貸し切ってチャンアンなどに行き、カヌーに乗った。お寺や塔にも行き、塔から見える景色が綺麗で感動した。また、その日はヤギ肉の料理を食べることができた。2週目の土曜日は農園とベトナムの学生の家、イオンに行った。イオンは10月にできたばかりで、トップバリュ製品など日本の商品や、牛角、寿司屋があって面白かった。また、みんなでボーリングをしてとても楽しかった。日曜日はホーチミンの墓、セント・ジョゼフ教会、ナイトマーケットに行った。たくさんの観光名所に行くことができ充実した休日を過ごすことができた。



◆プログラムに参加した感想

私は今回このプログラムに参加して本当に良かった。2週間は本当にあっという間でも充実していた。うまくやっていけるか心配だったが、ベトナムの人はみんなフレンドリーで優しく、冗談を言い合えるくらい仲良くなった。私は人見知りで教えることや人前で話すことが苦手だったが、このプログラムを通してその苦手を克服することができた。また、私が抱いていた発展途上国に対するイメージと違って驚いたと同時に、先入観

を持つことに対して危険を感じた。ベトナムの学生は、勉強に対する意識が高く、自分の夢を叶えるために勉強していて刺激を受けた。自分の未熟さを感じた。この2週間は、自分自身を大きく成長させることができた2週間だった。また機会があれば参加したいと考えている。

◆自分の目標の達成度や努力した経緯など

私は今回ベトナムに行くにあたって3つ目標があった。1つ目は異文化交流を通して視野を広げることである。ベトナムの学生と積極的に会話することで、私にはない考え方やものの見方を知ることができ、視野を広げることができた。2つ目は語学力を向上させることである。ベトナムでは、日本にいるときより英語を話す機会があったので英語を話すということに対する抵抗はなくなったが、語学力の低さに気づかされたのでこれから努力していきたいと考えている。3つ目は、苦手を克服することである。私は人見知りで人前に立つことや教えることが苦手だったが、自分から積極的に発することで人見知りを克服することができた。また日本語教室に参加して、教えるという行為を通して、自分自身も学ぶことができ楽しさを感じることもできた。

◆今後の展望

今回プログラムに参加して、自分の意識を変える良いきっかけになった。自分の足りないところや頑張らなければいけないことが明確になった。また、はっきりとした目標を持つことができたのでその目標に向かって一生懸命努力していく。

